

エボラに対するキューバの感動的な役割

この小さな国と医師たちの努力は、米国を不名誉な状態においている

キューバは貧しい国であり、世界から取り残されている国で、エボラの広がり世界に脅威を与えている西アフリカの国々からは4500マイルも離れている。だが、流行の最前線へ数百名の専門家を派遣すると宣言し、ウイルスを抑制しようと支援を求めている国々に、キューバは最も力強い役割を果たそうとしている。

少なくとも世界的規模での支援という意味では、キューバの貢献は決して大きなものではない。それにもかかわらず、このことは称えられ、見習うべきものである。エボラに対し世界中がパニックを来し、国家からの支援の反応は少なく力を失っている。

米国や他の豊かな国は、お金をだすことで満足しており、最も必要なこと、現場に医療の専門家をという支援を申し入れているのは国家ではキューバだけで、あとは2、3の非政府組織である。

患者を早期に発見し、隔離施設に収容するために必要な西アフリカの医師は少なく絶望的である。400名以上の医療従事者が感染し、4500人の患者が死亡した。

ウイルス感染は米国やヨーロッパでも起こり、大きな脅威をもたらす流行が、もうじき来るのではないかという恐怖感が起きている。

エボラにたいして戦うべきワシントンが、勇敢にも貢献しているハバナを外交上遠ざけているのは、恥である。米国とキューバの政府が広い分野で高度の協力ができなければ、エボラの対応で分裂するならば、生か死を分ける結果をもたらす。

キューバとの外交上の関係を素早く改善することの利益は、不利益よりはるかに大きいことを、オバマ政権は緊急に判断し思い起こすべきである。

キューバ医療団は感染の最も流行している人たちのなかで活動し、感染者を減少させられるかもしれない。WHOがキューバの医師を指導するが、どんな治療が有効か不明確で、キューバ人が感染し撤退しなければならない可能性もあり得る。感染患者を搬送するためには、経験をつんだ隊と特別に用意された航空機が必要である。

ジョン・ケリーの秘書は“この業務につく医療者の勇氣”を称賛し、キューバの行動を手短かに報告した。西アフリカに駐留している約550隊の米軍は、良識と共

感を示し、モンロビアに作ったペンタゴン治療センターへのキューバからのアクセスを了承し、また搬送を助けることを表明すべきだろう。

キューバの医療者の活動は全活動に利益をもたらす。このことを認めるべきだ。しかしオバマ政権の外交官は、どんな支援も自分たちのためにしていると、鈍感な発言をしている。

キューバの医療センターは、危険な活動でリスクがあることを承知している。2010年のハイチの地震で、キューバの医師はコレラ患者の治療の先頭に立った。数名が国に帰って発病し、全土にコレラが広がった。キューバでのエボラの流行は遥かに危険で、西半球全体への急速な拡大の危険性を増す。

キューバは世界の災害地へ医師、看護師を派遣してきた長い歴史がある。2005年のハリケーン・カトリーナの災害時、キューバ政府は緊急に医療団を結成しニューヨークオリンズへ医師を送ると申し入れた。米国はハバナからのこの申し入れを受けなかった。

しかし、ワシントンの役人は、キューバがシェラレオネ、リベリア、ギニアに医療チームを送った今回の行動には感嘆しているようだ。

強い伝染性ウイルスの患者を治療するために、WHOと協力し、キューバ政府は460名の医師・看護師を厳重な警戒を要する地に送った。つい最近第1グループ165名がシェラレオネに到着した。

WHOハバナ代表のホセ・ルイス・チ・ファビオ氏は、キューバの医療者は独自の防護体制を用意しており、これまでもアフリカで活動したことがある、と述べた。“キューバは非常に有能な医療のプロ集団だ”とウルグアイ人のMR. チ・ファビオ氏は言った。ファビオ氏は、世界の健康危機へのキューバの努力を、米国はキューバの港にかけている通商禁止令によって、最新式の医療機器を買い、備えることを妨害していると述べた。

週末に発刊されたキューバ機関紙「グランマ」のコラムで、フィデル・カストロは、米国とキューバは、命を助けるために、一時的であっても、違いを置いて協力しなければならないと言っている。彼は完全に正しい。